

(平成 年 月 日)



博物館学習シート（日本各地の茶）

中学生用：お茶の学習

このシートは、博物館の展示のうち歴史の学習と関係の深い資料について、みなさんが自分で調べるときに使います。疑問に思ったことや、よくわからないことは博物館の人に聞いたり、帰ってから各自で調べて見ましょう。鉛筆と下敷きを用意しましょう。（ペンやマジックなどは持ち込んではいけません。）

1. 「日本の緑茶の作り方」にはどんなものがありますか。代表的なものを調べてみましょう。

また、現在日本各地にブクブク茶・バタバタ茶・ポテポテ茶など珍しい喫茶習慣が残っています。これらには共通した特徴がありますが、それはどんな特徴でしょうか。展示してある喫茶道具をよく見て答えましょう。

2. お茶の主な生産県が示されていますが、この分布図を見て気がついたことを書いてみましょう。



3. 群馬県中之条町白久保では「お茶講」という民俗行事が行われています。その行事はどのようなものか調べて見ましょう

ちょっと一息

“振り茶”ってどんなお茶？

振り茶とは、茶筥でかき混ぜ、泡立てて飲むお茶の総称です。

展示で紹介されている

「ブクブク茶」(沖縄県)

「バタバタ茶」(富山県)

「ポテポテ茶」(島根県など)

はいずれも「振り茶」の一種です。



こうした飲み方は、古くから全国各地で庶民のお茶の飲み方として行われてきました。そこで使われるお茶は、実際のお茶とは別の植物から作られた「代用茶」であったり、「番茶」であったりしました。元来、日本では急須で入れて飲む「煎茶」が普及する江戸時代以前は、粉にしたお茶を湯にといて飲む「抹茶」の喫茶法が鎌倉時代に中国から伝わり、盛んに飲まれていました。そこで使われたお茶が実際にどのようなお茶だったのかはわかりませんが、大ぶりの茶碗に粉にしたお茶と湯を入れて、それを茶筥でかき混ぜて飲むという方法が行われていたことは、当時の絵などから推定できます。

現在、この抹茶と振り茶の関係はいずれが古いか新しいか、どのように関連づけられるのか、はっきりとしたことはわかりませんが、このようにお茶を茶筥でかき混ぜてのむという方法は、日本に古くから伝わった喫茶法だったのです。

全国のお茶の生産状況（平成16年度茶業統計）

	茶栽培面積（全国計 49,100ha）	荒茶生産量（全国計 100,700ha）
1位	静岡県 20,300	静岡県 44,200
2位	鹿児島県 8,380	鹿児島県 25,200
3位	三重県 3,360	三重県 7,640
4位	熊本県 1,670	宮崎県 3,780
5位	福岡県 1,580	京都府 2,958
8位	埼玉県 1,190	13位 埼玉県 792

現在の全国の茶産地と比較してみると、埼玉県のお茶「狭山茶」は茶栽培面積が8位、荒茶生産量が13位となっています。これを見ると面積の割に生産量が少ないのがわかります。

ちなみに、埼玉県内の市町村別の茶業統計では、茶栽培面積・荒茶生産量とも入間市がダントツの1位（約5割）となっており、入間市は狭山茶の主産地ということが出来ます。

見学を終えて

・博物館の見学をしてあなたは、どの展示物が一番印象に残りましたか。

・それはどのような
ものですか。

・印象に残った理由
は何ですか。

・見学をしていて、疑問に思ったことはありませんでしたか。

・それはどのような
ことですか

中学校 年 組 名前